

93 ナメクジ属の一種

(ナメクジ科)

兵庫県ランク:C

Meghimatium sp.

環境省ランク:指定なし

種の概要

湊・村山(2003)の新潟産のハナタテヤマナメクジとして仮称しているものと同種または近縁なものと考えられ、同種と思われるものは、長野や対馬などで報告されている。降雨後の活動時は伸長し60mmほどになるが、通常は30~50mmほどである。体色は橙色を帯びた黄色で、体後部には顆粒状の微小な凹凸が生じる。大・小触角の基部は半透明だが、それより先端は黒色となる。山地の林床や神社の樹林に生息する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
				○	○		○

県内分布

洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の洲本市の山中で確認されているが、既知産地は2箇所しかなく、個体密度も極めて低い。30年ほど前に新温泉町久谷でも本種に似たナメクジを確認しているが、同種かどうか未確認である。淡路島中部では、気候や地質的なことも関係し、比較的乾燥した山林が広がっており、ヤマクルマ(貝類地域限定貴重種)やアツブタガイのような乾燥に強い陸貝以外には適さない林地がかなりの面積を占めている。

保護上の留意点

本種のようにある程度の湿度のある林床を要求する種類には適さない環境が進行している淡路島では、山林においては不用意に林道の新設や大規模な樹木の伐採を避けることが、林床を安定的にすると同時に土砂災害も軽減されると考えられる。



【執筆者】 増田修